

シートマルチ栽培「させぼ温州」の有葉果と直花果の果実形質の違い						
<p>[要約]「させぼ温州」のシートマルチ栽培で、糖度が14.0以上になる樹では、直花果の果実が小さくS級中心となり、葉が1～3枚及び4～6枚の有葉果は果実肥大がよくM級中心となる。なお、葉が4～6枚の有葉果は浮き皮果の発生がみられる。</p>						
長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導

[背景・ねらい]

佐世保地域で「宮川早生」の枝変わりとして発見された「させぼ温州」において、シートマルチ栽培での高品質果実の結実状態を解明し、高品質果実生産技術の確立に資する。

[成果の内容・特徴]

- ①シートマルチ栽培下で果実糖度が14.0以上になる樹では、直花果は1果平均重が小さく、S級果が中心となり、有葉果は葉の枚数に関わらずM級果中心となる（表1、2）。
- ②シートマルチ栽培下では、直花果は有葉果に比べ糖度がやや高い傾向にあるが、有葉果の葉の枚数の違いでは差はみられない（表1、2）。
- ③葉が4～6枚の有葉果は、直花果や葉が1～3枚の有葉果に比べ、浮き皮の発生がやや多くなる（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

- ① シートマルチ栽培下で目標糖度を14.0以上に設定した場合は、直花の果実は肥大が鈍くS級果になるので、摘果により肥大促進に努める。
- ②葉が4枚以上の有葉果は、気象条件により浮き皮の発生がみられるので注意する。

[具体的データ]

表1 結実状態と果実形質

(2000年11月20日)

調査園	結実状態	1果平均重 (g)	横径 (mm)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色 (a/b)	浮き皮 <sup>2</sup>
E調査園	直花果	79.0	57.8	16.0	1.55	10.7	0.56	0.01
	有葉果1~3枚	97.6	62.2	15.5	1.41	11.6	0.58	0.08
	有葉果4~6枚	107.5	64.1	15.4	1.34	12.0	0.58	0.06
H調査園	直花果	79.8	58.8	14.6	0.90	16.4	0.57	0.04
	有葉果1~3枚	103.3	65.3	14.0	0.87	16.2	0.60	0.13
	有葉果4~6枚	120.2	68.6	14.1	0.88	16.2	0.61	0.17

<sup>2</sup> 浮き皮 発生指数 =  $\Sigma$  (指数 × 発生果数) / (3 × 調査果数)

表2 結実状態と果実形質

(2001年11月26日)

調査園	結実状態	1果平均重 (g)	横径 (mm)	糖度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	果皮色 (a/b)	浮き皮 <sup>2</sup>
E調査園	直花果	85.7	58.3	15.1	1.15	13.6	0.51	0.00
	有葉果1~3枚	90.1	60.4	15.1	1.11	13.9	0.55	0.00
	有葉果4~6枚	110.8	64.3	14.8	1.12	13.8	0.57	1.10
H調査園	直花果	81.3	58.0	14.6	1.02	15.1	0.55	0.00
	有葉果1~3枚	100.0	63.1	14.0	0.92	16.3	0.58	0.00
	有葉果4~6枚	113.5	66.1	14.1	0.92	16.3	0.58	2.23

<sup>2</sup> 浮き皮 発生指数 =  $\Sigma$  (指数 × 発生果数) / (3 × 調査果数)

[その他]

研究課題名：させぼ温州の早期樹冠拡大と高品質果実安定多収生産技術

予算区分：県単

研究期間：平成13年度（平成11~15）

研究担当者：高見寿隆、古川忠

発表論文等：なし